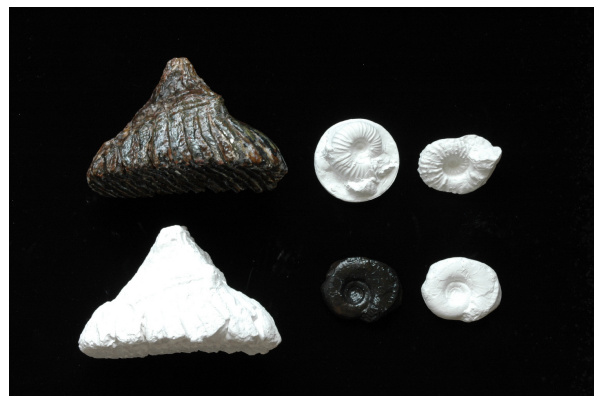


ウィンタースクール

「化石のレプリカを作ろう」のお知らせ！

- 日 時 平成 26 年 1 月 7 日（火）、8 日（水）
午後 1 時～3 時
- 場 所 別海町郷土資料館
- 参加対象 小学生
- 内 容 ①アンモナイトコース（低・中学年向け）
②マンモスコース（中・高学年向け）
型に石膏を入れて、アンモナイトやマンモスの化石のレプリカを作ります。色もぬることができます。
- 定 員 両日とも 10 名限定とします。電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を 12 月 27 日（金）までにご連絡ください。



写真左-マンモスゾウ臼歯化石

写真右-アンモナイト化石

尾岱沼・床丹・平成地区文化祭、 「昔の日用品コーナー」！（出前移動展）

10 月 31 日～11 月 8 日東公民館で開催された上記文化祭に、「昔の日用品コーナー」として所蔵資料の展示を行いました。芸術作品とともに来場される方に昔を懐かしんでもらおうと東公民館と企画しました。

お釜、おひつ、炭火アイロン、ミシン、レコードなどの懐かしい資料とともに、地域の方から持ち寄られた資料も並び子どもから大人まで楽しめる展示となりました。



知られざる幕末会津藩北辺防衛の歴史-最終- 加賀家文書館第 11 回特別展から-

標津代官南摩綱紀と大通辞加賀伝蔵のアイヌ教導



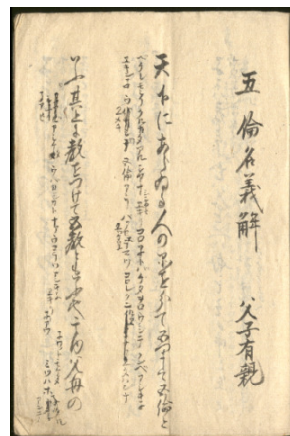
南摩綱紀

南摩綱紀は文政 6 年(1823)11 月、若松城下に生まれ、家禄三百石の家柄の上級藩士でした。8 歳の頃には「孝教」、「論語」、「孟子」を始めとする四書を読み、藩校日新館では秋月悌次郎と並ぶ秀才と称されました。15 歳より弓馬等の武道を、26 歳の時江戸昌平学で経史、百家の漢学、次いで大坂では洋学を深く学びました。藩命により関西諸国を歴遊し、各藩の政治状況を視察。その後、日新館教授に抜擢され、山本覚馬と共に洋学を教えています。

文久 2 年(1862)、綱紀 40 歳の年に、藩命により樺太を巡見した後、蝦夷地代官兼勘定奉行として標津に赴任し、以後慶応 3 年(1867)までの 6 年の歳月を標津で過ごしています。

綱紀は標津在勤中、暇をみては領内各地を巡り、派遣された藩士の子弟のみならず、現地のアイヌ達にも学問を教えて回ったと言われています。アイヌ語を解さない綱紀が、いかにしてアイヌ達に学問を教えていたのかを知る文書が、当館附属施設加賀家文書館にあります。

加賀家文書とは、文久 2 年(1862)より標津場所支配人を務めた加賀伝蔵の記した文書類です。この中に、当時箱館奉行所が各地のアイヌ達の改俗を目的に配布した教書『五倫名義解』と、それを伝蔵がアイヌ語に訳した訳本が残されています。綱紀と伝蔵とが相通じる仲であったことは、伝蔵が郷里秋田に帰る折、綱紀が送った『伝蔵の帰省を送る詩』により知ることができます。文久 2 年(1862)以降、標津の政治・経済の要として共に活躍した二人が、アイヌ達への学問普及を目指してつくった合作。それがこの伝蔵の『五倫名義解』アイヌ語訳本であったのです。



五倫名義解

● 知られざる幕末会津藩北辺防衛の歴史 - 加賀家文書館第 11 回特別展は、11 月をもって終了いたしました。期間中たくさんの方にご来館いただき誠にありがとうございました。

本特別展は、標津町歴史文化研究会・標津町ポー川史跡自然公園・中標津町郷土館との連携協力で実施することが出来ました。中標津町では、今後下記の通り特別展が開催されますので、見逃した方はご観覧いただければ幸いです。

中標津町郷土館：2013 年 12 月 3 日～2014 年 1 月 26 日

中標津町交流センター：2014 年 2 月 8 日～2 月 28 日

中標津町総合文化会館：2014 年 3 月 6 日～3 月 23 日

別海町郷土資料館だより No.173

発行日 平成 25 年 12 月 4 日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

今年度の特別展は、NHK 大河ドラマ「八重の桜」の放送もあり、たくさんの方々の興味をひいたものとなりました。会津藩が幕末にこの地に来ていた事を多くの方が知らず、その中で加賀伝蔵が深く関わっていた事もあまり知られてはいませんでした。そういった意味では歴史を再認識する大きな意義を持った特別展となりました(担当 KI)